協力隊の活動があったからこそ

こんにちは。「地域おこし協力隊奮闘記」も最終回です。いよいよ協力隊から巣立つ時がやってきました。最後は１期生３人で、この奮闘記を締めくくりたいと思います。

大山町では平成26年からこの制度を導入して、現在9名の地域おこし協力隊が起業、農業、観光の各分野で活動しています。

「地域おこし協力隊」は総務省の企画する制度であり、人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動をする中で、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした制度です。

私たち３人（薮田・小谷・青木）は第１期生として、それぞれＩターン・Ｕターンで大山町に移り住み、さまざまな活動やチャレンジをしてきました。

着任当初は「地域おこし協力隊って何？」とよく尋ねられましたが、３年間の活動を通じて少しずつ広がり、認知してもらえたのではないかと思っています。そして何より私たちの活動は、大山町の皆さんに助けられ、支えていただいたおかげで成し遂げられたものばかりです。

そんな私たち第１期生も、３月末に任期満了を迎えます。これからは、この３年間の活動で培った経験を活かして自分たちの足で立ち、大山町を拠点に活動していきます。

今後も大山参道の観光まちづくりに関わります

私は中山地区出身で、東京から帰郷し、協力隊員になりました。

任期中はカーブスの誘致、IT企業の誘致、シェアハウスづくり、自然薯栽培、大山寺参道の観光まちづくりなどの活動を行い、その他多岐にわたって取り組みをしてきました。

私はじっくり考えるよりも、まず「動く」ことを信条としています。新しい事を始める時は、動かないとわからないことがたくさんあるからです。ただ、そのせいで、形になったことよりもならなかったことの方が多く、成功の数よりも失敗の数の方が多くなってしまいました。「やるやる」といって周りを期待させて道半ばで断念したことも多数あり、そのたびに関係者を振り回して迷惑をかけてしまいました。

人との付き合い方など含めて、「もっとああしておけばよかった」という反省がたくさんあります。ただ、自分にとっては、どれも実践を通してわかったことばかりで、挑戦したこと自体に後悔はありません。同じ過ちを繰り返さないように気をつけようと思います。

協力隊の活動を通じて、自分がやりたいことをやるには、まず信頼を得ることが大事だと実感しました。着任当初は、地域の方から「研修生」と見られることが多かったのですが、実際に動きまわる中で認めてもらい、頼られ、任されるようになりました。この〝信頼を貯金していくこと〟の大事さは、協力隊の仕事も、会社員の仕事も何ら変わりません。

今後は、株式会社さんどうの代表として、大山参道の観光まちづくりの仕事を継続していきます。大山が団体バスの観光地としてにぎわう時代は終わりました。大山参道の未来は、あの場所が地域の人にとって自慢の場所になるかどうか、「ローカルリゾート」として近隣に住む人々が週末を過ごしたい場所になるかどうかにかかっていると思います。そうなるように、自分も貢献したいと思います。

引き続きよろしくお願いします！

小谷英介
（こだに・えいすけ）